

# 大人のチカラ

3

～子どもたちの未来のために～

香川大学生涯学習教育研究センター長

清國祐二教授に聞く①

## 子どもの発達理解し 与える影響考える

**子** 子どもたちの生活習慣の乱れやマナー低下などが懸念される中、家庭の役割が重要視されています。香川大学生涯学習教育研究センター長・清國教授は、「家庭は子どもの社会性を意識した橋渡しのような役割が必要」と指摘しています。

### 家庭の役割を再確認

子どもたちの健全な成長のためには基本的な生活習慣とともに、社会の一員としてのルールやマナーなどを身に

付けることが大切です。そこで重要な役割を果たすのが「家庭」。すべての教育の出発点である家庭の役割を再確認することが今、改めて求められています。

### 家庭教育力は 低下傾向？

清國教授は「乳児期までは親子の愛情や絶対的信頼関係を育むことが家庭での一番の役割。幼児期を過ぎると、子どもは急速に外の世界との関わりが増えるため、社会性や集団生活を意識した、社会との橋渡しのような役割が求められるようになってきます」と指摘。子どもの成長に合わせた家庭教育の重要性を話します。

香川県の2006年家庭教育状況調査によると、「将来子どもにどのような性質を持った大人に育ててほしいと考えているか」という問いに対し、「思いやり」「礼儀正し

さ」「忍耐強さや粘り強さ」「お金や物を大切にできる心」などを挙げる保護者が多数を占めています。一方、「家庭での教育力が低下している」と感じている保護者は小学校で54.2%、中学校で60.1%。その理由として「親自身のモラルの低下」「親の過保護や過干渉」「子どもとかわる時間の減少」「親中心の生活」などが挙げられています。

人のライフスタイルに子どもを付き合わせている保護者が多いのではないだろうか。子どもの発達を理解し、夜型生活が子どもにも与える影響をもっと考えるべき。まずは、大人の生活を見直し「ましよう」。家庭内で保護者が率先して規則正しい生活リズムをつくることや模範を示すことを呼び掛けています。

### 保護者が率先し 模範を示す

歯止めのかかない夜型社会に子どもたちが巻き込まれている現状を清國教授は憂慮しています。「大



協力／香川県教育委員会